HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	芒亭書屋談叢
Author(s)	芒亭
Citation	各務時報, 86
Issue Date	1935-07-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77704
Type	article
File Information	A010_12738491_Part5.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

送迎の辭

三伏の暑氣漸く劣へ、萬物涼風に遊へる時我が校も大いなる變動に遭遇したのである。草場校長の御勇退、米山先生校長御就任が即ち之である。

休暇明け早に、この兩先生を御送迎しなければならぬ私共學生は眞に感慨深きものがある。

申すまでもなく草場先生は我が校日尚淺き時代より、今日の發展といふのひたる長期間學み下された育ての親である。その人格高く德望深き事は、今さら再言する要もなく、その先見の明のあられた事は、夙にかの「農村工業化」「農業工業化」なる語をはじめて用ひられ、世の識者に聞はれた事よりも私共の充分窺ひ知る所である。

殊に各務學園に學ぶものにとつて忘るべからざる事は、教育指導方針として「自化自育」をモットーとせられその行くべき道を指し示めされた事である。これは永久に本校の教養精神たるのみならず、又私共生涯の教訓でもある。

今や卒業生を出だされる事已に九回、昨年は又十周年記念を成功裡に終へられ、まさに功成り名遂げられた境涯である。私共は先生と御別れするに忍び難いものがあるが、そのなすべきを果したる御心境を惟ひ心からなる喜びを以て御送りする次第である。

米山先生は本校創立當初より教授として、校の發展に盡瘁せられ私共の敬慕し措かざる所、今や發展期に入りたる我が校にとつて、先生を新校長に推戴し得たるは私共の欣幸之に過ぎるもの無し。

私共はこの思ひ出深き時に際し草場先生の殘されたる御教訓と、米山先生の溫き御指導とに依りすでに立派に培はれし「岐高農魂」を益々發揮せん事を誓ふものである。

こゝに兩先生の今後の御多祥を祈り送迎の辭とする。

總務部

昭 10. 9. 25. 86号